

令和7年度 事業報告書

(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)



学校法人 東筑紫学園

目 次

1. 法人の概要	1
(1)基本情報	1
(2)建学の精神	1
(3)学校法人の沿革	2
(4)設置する学校・学部・学科等	3
(5)学校・学部・学科等の学生数の状況	4
(6)収容定員充足率	4
(7)役員の概要	5
(8)評議員の概要	6
(9)会計監査人の概要	6
(10)理事選任機関の概要	7
(11)教職員の概要	7
(12)その他	8
2. 事業の概要	9
(1)主な教育・研究の概要	9
(2)中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況	24
3. 財務の概要	28
(1)決算の概要	28
①貸借対照表関係	28
②事業活動収支計算書関係	29
③資金収支計算書関係	30
・資金収支計算書	30
・活動区分資金収支計算書	31
(2)その他	32
(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	33
4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用状況の概要	35

1. 法人の概要

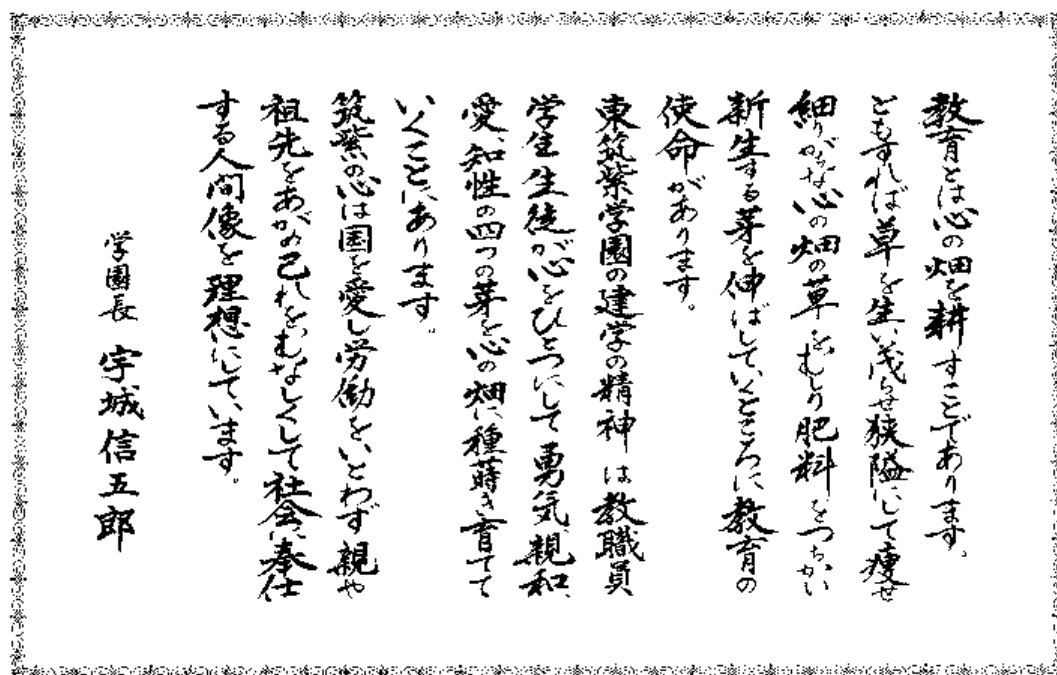
(1) 基本情報

法人の名称	学校法人東筑紫学園
所在地	福岡県北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号
電話番号	093-561-2136(代表)
FAX 番号	093-561-9728
ホームページアドレス	https://www.knwu.ac.jp/hcg/

(2) 建学の精神

本学は宇宙の根源をなす神の意志を以て心とする平和理念に基づいた教育を根本方針とし、学長自ら堅い信念と、強い実践力を以て其の陣頭に立ち、高い教養と豊かな情操を養い、心・技・美、一如の実際に即した専門教育を授け、心身共に健全にして、人類社会の福祉に貢献できる人材を育成することを建学の精神としている。

筑 紫 の 心



・地域貢献の方針

建学の精神「筑紫の心」の勇氣・親和・愛・知性の四つの徳目を育てていくことが本学の教育理念であり、教育全般についての考え方の根幹となっている。この「筑紫の心」を教育および研究活動に浸透させながら、地域社会と密接に関わることは重要な使命であり、地域における教育・研究の拠点として、生涯教育・

キャリア教育の中核的な役割を担う必要があると考えている。このようなことから、地域の社会的活動に関与しながら教育・研究の成果を地域社会へ還元すると共に、地域社会と親密なパートナーシップを果たすべく公開講座・支援講座を積極的に展開している。

(3) 学校法人の沿革

昭和 11 年	3 月	筑紫洋裁女学院を創立。
昭和 18 年	11 月	財団法人東筑紫技芸女学校創立認可される。
昭和 21 年	3 月	東筑紫技芸女学校専攻科を設置認可される。
昭和 22 年	3 月	財団法人東筑紫技芸女学校を財団法人東筑紫学園に改称する。 専門学校令により東筑紫女子専門学校を設置。
昭和 22 年	4 月	学制改革により東筑紫技芸女学校が東筑紫女子中学校となる。
昭和 23 年	4 月	東筑紫高等学校を開校。
昭和 25 年	4 月	東筑紫短期大学開学。被服科設置。
昭和 26 年	3 月	財団法人東筑紫学園を改め学校法人東筑紫学園とする。 東筑紫短期大学開学により東筑紫女子専門学校を発展的に廃止。
昭和 26 年	10 月	東筑紫幼稚園を開園。
昭和 29 年	4 月	東筑紫短期大学に保育科を設置。
昭和 33 年	4 月	東筑紫短期大学に栄養科を設置。
昭和 37 年	12 月	東筑紫短期大学に別科(被服専修)を設置認可される。
昭和 38 年	4 月	東筑紫高等学校を東筑紫短期大学附属高等学校に、 東筑紫女子中学校を東筑紫短期大学附属中学校に、 東筑紫幼稚園を東筑紫短期大学附属幼稚園にそれぞれ名称変更。
昭和 41 年	4 月	東筑紫短期大学栄養科を食物栄養科に名称変更。
昭和 44 年	4 月	東筑紫短期大学被服科を被服専攻と服飾美術専攻の二専攻に分ける。
昭和 48 年	9 月	東筑紫短期大学別科(被服専修)を廃止認可される。
昭和 61 年	4 月	東筑紫短期大学附属中学校を東筑紫学園中学校に名称変更。
平成元年	4 月	東筑紫短期大学被服科を生活文化学科に、保育科を保育学科に、 食物栄養科を食物栄養学科にそれぞれ名称変更。 東筑紫学園中学校を照曜館中学校に名称変更。
平成 3 年	4 月	東筑紫短期大学附属高等学校被服科を服飾文化科に、 食物科を食物文化科に名称変更。
平成 4 年	4 月	東筑紫短期大学附属高等学校を東筑紫学園高等学校に名称変更。
平成 13 年	4 月	九州栄養福祉大学開学。食物栄養学部食物栄養学科を設置。
平成 14 年	4 月	東筑紫短期大学に専攻科介護福祉専攻を設置。
平成 16 年	4 月	労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校を継承し、学校法人東筑紫学園専門学校九州リハビリテーション大学校として開学。
平成 17 年	4 月	九州栄養福祉大学大学院を開学。食物栄養学研究科 食物栄養学専攻 修士課程を設置。

平成 18 年	4 月	東筑紫短期大学に美容ファッションビジネス学科を設置。
平成 19 年	4 月	専門学校九州リハビリテーション大学校を四年制専門学校高度専門士課程に変更。
平成 20 年	3 月	東筑紫短期大学生活文化学科廃止。
平成 23 年	4 月	九州栄養福祉大学にリハビリテーション学部理学療法学科、作業療法学科を設置。
平成 24 年	4 月	九州栄養福祉大学大学院 食物栄養学研究科を健康科学研究科に名称変更。
平成 26 年	3 月	専門学校九州リハビリテーション大学校閉校。
平成 26 年	9 月	専門学校九州リハビリテーション大学校廃止認可される。
平成 29 年	4 月	幼稚園型認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園を開設。
令和 3 年	3 月	東筑紫短期大学美容ファッションビジネス学科廃止。
令和 7 年	4 月	九州栄養福祉大学にこども教育学部こども教育学科を設置。九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科を設置。

(4)設置する学校・学部・学科等

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

・九州栄養福祉大学

食物栄養学部	食物栄養学科・食環境データサイエンス学科
こども教育学部	こども教育学科
リハビリテーション学部	理学療法学科・作業療法学科
大学院	健康科学研究科 健康栄養学専攻

・東筑紫短期大学

保育学科
食物栄養学科
専攻科 介護福祉専攻

・東筑紫学園高等学校

全日制課程

・照曜館中学校

・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
九州栄養福祉大学	食物栄養学部	160	106	470	400
	こども教育学部	50	25	50	25
	リハビリテーション学部	120	92	480	411
	大学院(健康科学研究科)	4	1	8	1
東筑紫短期大学	保育学科	70	84	220	171
	食物栄養学科	50	34	120	76
	介護福祉専攻科	30	16	30	16
東筑紫学園高等学校		450	374	1,350	1,071
照曜館中学校		100	49	300	176
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園		240	36	240	189

(6) 収容定員充足率

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

学校名	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
九州栄養福祉大学	104.2%	99.7%	99.6%	95.7%	83.0%
東筑紫短期大学	86.0%	78.3%	79.1%	70.4%	71.1%
東筑紫学園高等学校	85.3%	84.9%	83.0%	81.2%	79.3%
照曜館中学校	63.3%	64.3%	65.3%	60.7%	58.6%
認定こども園東筑紫短期大学 附属幼稚園	83.3%	82.5%	76.2%	80.8%	78.8%

(7) 役員の概要

定員数 理事 7名～13名 (現員数 11名)

監事 2名 (現員数 2名)

(令和7年6月1日現在)

区分	氏名	就任年月日	主な現職等	外部理事
理事長	室井 廣一 ^{*1}	令和4年4月1日	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学長	
理事	五十棲 錠二	平成27年9月1日	東筑紫学園高等学校・照曜館中学校 校長	
	小島 久須美	令和3年4月1日	認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 園長	
	宇城 照耀	平成13年4月1日	学校法人東筑紫学園 前理事長	
	木本 節子	平成29年4月1日	東筑紫短期大学 客員教授	
	秋山 義継	平成29年7月1日	拓殖大学 名誉教授	○
	佐野 幹剛	令和3年4月1日	九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 教務部長	
	中岡 寛	令和4年5月1日	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学長補佐	
	山口 博章	令和7年5月30日	大石産業株式会社 代表取締役社長	○
	渡邊 啓一	令和7年5月30日	九州栄養福祉大学 食物栄養学部長 兼 食物栄養学部食環境データサイエンス学科長	
	藤本 公輝	令和7年5月30日	学校法人東筑紫学園 法人事務局長	
監事	大石 聡一郎	令和7年5月30日	福岡銀行 常務執行役員 北九州代表兼北九州本部長	
	坂本 直記	令和7年5月30日	株式会社吉川システック 代表取締役社長	

※ 氏名右上の^{*1}は常勤を示している。

理事・監事との契約状況等

責任免除に関する決議等	○	責任限定契約	
補償契約		役員賠償責任保険契約	○

(8)評議員の概要

定員数 8名～14名 (現員数 12名)

(令和7年6月1日現在)

区分	氏名	就任年月日	主な現職等
評議員	橋元 隆	平成23年4月1日	九州栄養福祉大学 日本リハビリテーション発祥地記念館・九州リハビリテーション大学校記念館長
	萩原 勇人	令和3年4月1日	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部長
	臨光 光浩	令和5年4月1日	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 事務部長 兼 学校法人東筑紫学園 法人事務局 経理課長
	大浦 憲昭	令和7年5月30日	東筑紫学園高等学校・照曜館中学校 事務長
	金島 慎治	平成28年4月1日	卒業生
	内山 拓也	令和7年5月30日	卒業生
	寒竹 啓太	令和7年5月30日	卒業生
	北原 由佳	令和7年5月30日	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学後援会 会長
	高木 良輔	令和6年6月1日	東筑紫学園高等学校・照曜館中学校 父母教師会 会長
	進 千香	令和6年6月1日	認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 後援会 会長
	後藤 祐平	令和7年5月30日	株式会社丸ふじ 代表取締役社長
	重松 祥平	令和7年5月30日	株式会社ワールドインテック(北九州市役所 産業経済局出向)

(9)会計監査人の概要

定員数 2名 (現員数 2名)

(令和7年6月1日現在)

区分	氏名	就任年月日	備考
会計監査人	丸林 信幸	令和7年5月30日	公認会計士
	岡田 理絵	令和7年5月30日	公認会計士

会計監査人との契約状況等

責任免除に関する決議等	○	責任限定契約	○
補償契約		役員賠償責任保険契約	

(10) 理事選任機関の概要

構成員 寄附行為第6条第2項に掲げる全ての理事

定員数 7～13名 (現員数 11名)

(令和8年3月31日現在)

選任機関長 室井 廣一

構成員氏名 五十棲 錠二、小島 久須美、宇城 照燿、木本 節子、秋山 義継
佐野 幹剛、中岡 寛、山口 博章、渡邊 啓一、藤本 公輝

(11) 教職員の概要

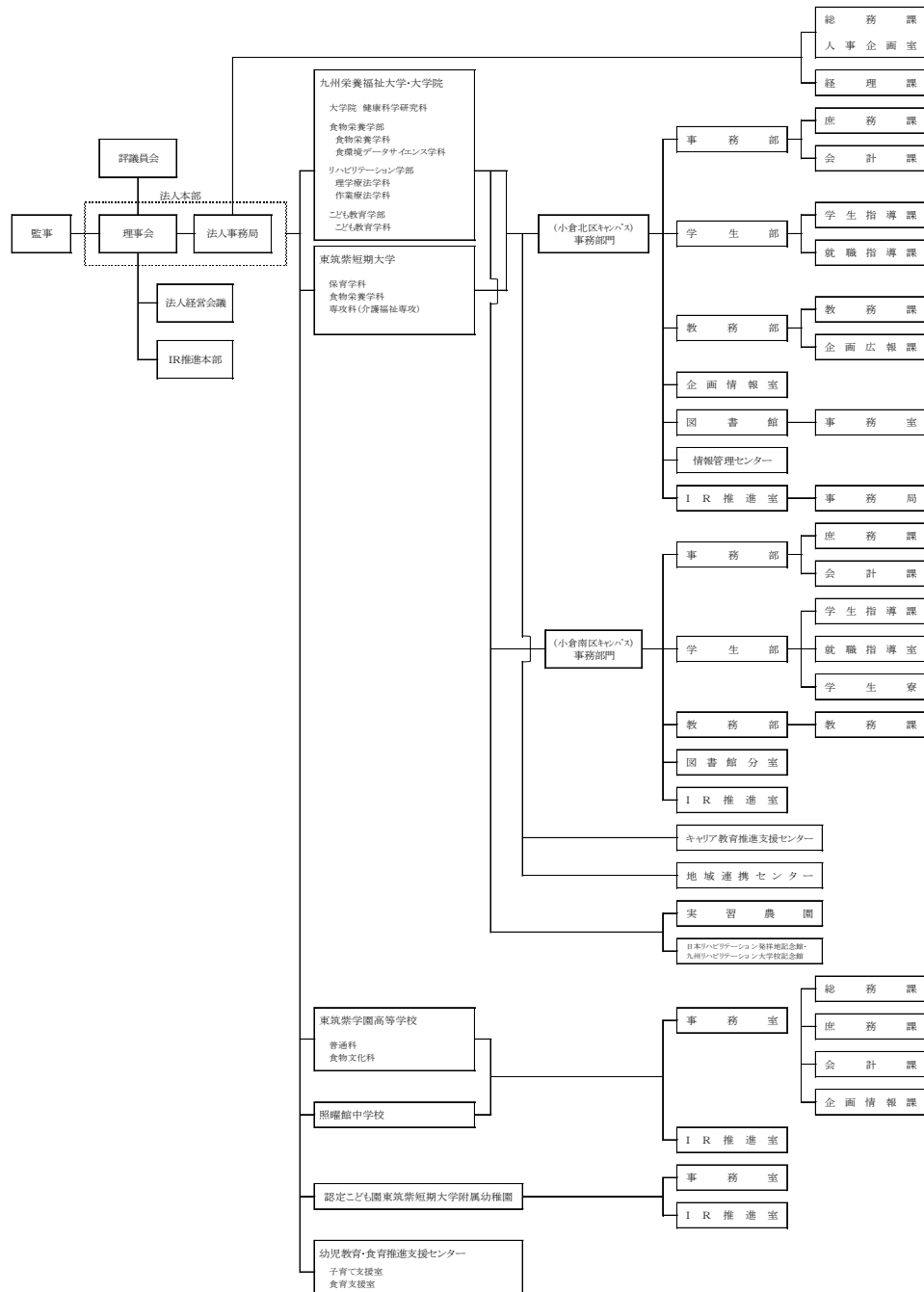
(令和7年5月1日現在)

設置する学校	専任教員 (常勤含む)	非常勤	計	専任職員 (常勤含む)	非常勤	計
九州栄養福祉大学	59	78	137	43	21	64
東筑紫短期大学	21	22	43	15	4	19
東筑紫学園高等学校	69	35	104	14	1	15
照曜館中学校	18	1	19	1	0	1
認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園	20	17	37	2	5	7
法人事務局	0	0	0	3	1	4
計	187	153	340	78	32	110

(12)その他

学校法人 東筑紫学園の概要(令和7年4月1日現在)

学校法人東筑紫学園 組織図



設置学校の所在地 (令和7年4月1日現在)

- 九州栄養福祉大学・大学院 北区キャンパス 福岡県北九州市小倉北区下到津5-1-1
- 九州栄養福祉大学・大学院 南区キャンパス 福岡県北九州市小倉南区葛原高松1-5-1
- 東筑紫短期大学 福岡県北九州市小倉北区下到津5-1-1
- 東筑紫学園高等学校 福岡県北九州市小倉北区清水4-10-1
- 照曜館中学校 福岡県北九州市小倉北区清水4-10-1
- 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 福岡県北九州市小倉北区下到津5-3-14

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

・九州栄養福祉大学

大学は食物栄養学部(食物栄養学科、食環境データサイエンス学科)、リハビリテーション学部(理学療法学科、作業療法学科)、こども教育学部(こども教育学科)、短期大学では保育学科、食物栄養学科、専攻科介護福祉専攻、大学院では健康科学研究科を設置している。大学で3学部5学科、短大で2学科と1専攻科、合わせて8学科、そして大学院という構成である。

学園創設100周年に向かって人間生活・地域社会に不可欠な人材を養成する「生活者実学系の総合大学」を目指している。地域社会に栄養と福祉を与える大学ということで九州栄養福祉大学を名乗り、伝統のある東筑紫短期大学と共にそういう8分野の高度な専門技術者を養成している。九州栄養福祉大学は建学の精神「筑紫の心」を基本にして食とリハビリテーション、教育、データマネジメント分野の高度な専門家を育成しようという実践的実学的目標をもった大学である。本学は、高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、特に食物栄養、リハビリテーション、こども教育と食環境データサイエンスに関する専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する管理栄養士・理学療法士・作業療法士・こども教育者・データサイエンティスト養成を目的とする。

そもそも本大学は、食とリハビリテーションを通して福祉を実現するという方法意識、使命感の基に学問的に裏付けられた専門的方法を修得し「健康生活の番人」(食の番人、リハの番人)としての人材養成の役割を果たす食物栄養学部とリハビリテーション学部の2学部で地域貢献を行ってきたが、令和7年からこども教育学部と食物栄養学部(食環境データサイエンス学科)が増設され短期大学の2学科1専攻と併せて8学科の生活者実学系の総合大学を目指すこととなった。

北九州初の男女共学のこども教育学部こども教育学科は、こども教育に関する4つの免許資格(小学校教諭一種/特別支援学校教諭一種/幼稚園教諭一種/保育士資格)が取得可能である。すべての「こども」を深く見つめ慈しみ育てる人材の養成を目指している。そのためには「こども」の全面をできるだけ知り「こども」への視野拡大が必要である。できれば幼稚園、保育所、特別支援学校、小学校のすべての「こども」を知って欲しい。その一つの試みが四つの免許資格に挑戦するということである。四免許資格に挑戦するのは大変であるが勉強している間に何かをつかめるのではないかと考える。様々な理由で困難を感じたり難しかったり、自分の進路に集中したいときは途中であきらめてもよい。まずは挑戦が大切である。いろいろな「こども」がいるということを知ることが大事である。そのいろいろな「こども」を広く深く知った「慈しみのある教育者」を目指してほしい。

もう一つの学科は九州初の食物栄養学部食環境データサイエンス学科である。食環境データサイエンス学科では、AI・情報産業革命時代を読み生き抜くデータサイエンティスト育成を目指している。激変する情報環境の中でしっかりとデータマネジメントができる人材養成をしたいと考えている。今この分野の専門家が圧倒的に足りないということはマスコミや産業界から指摘されているとおりである。第四次産業革命で「データサイエンティスト」に求められるものは端的に言って膨大なデータ群から我々にとって必要な価値ある情報を

分析、解析し掴みだしてくる力ということになる。AI の目覚ましい成長は、データサイエンティストの活躍の場をさらに広げていくことが予測される。九州で初めてこの学科が認可され、企業実習などで協力していただける42企業団体とも連携できた。データサイエンティストがいかに関与とされているかということだと思う。本学科には株式会社安川電機の元 CTO (最高技術責任者) の熊谷彰氏と株式会社オプティム(東証プライム上場企業)の菅谷俊二社長を特別客員教授としてお迎えしご指導いただいている。

以上本学各学部学科のそれぞれが目指す専門教育の目標と実学的特徴を概観してきたが、本学はこのような専門教育と同時並行的に行事教育という建学の精神に基づく人格教育を学園開学以来90年間実践してきている。

食指導・子育て・介護・リハビリ・データマネジメントというような生活者の実学の専門人養成教育課程と建学の精神に基づく人格教育課程の双方から高度な専門家養成と人格教育をできるだけ一体的に実践していこうということだ。それはそうすることで専門教育と人格教育の双方が活性化し充実してくるからである。真に実学教育を目指すなら、目指す実学の教育課程が実学的でなければならない。建学の精神に基づく人格教育の主要を成すのは行事教育である。本学では主として行事教育というカリキュラムが計画実践されてきた。一つ一つ記すことはできないが建学の精神・四つの心についての学長講話、農園実習、食物感謝祭、校内競技大会、学内成人式、針供養、大学祭などで、その主たる目的とするところは建学の精神四つの心・四つの生命力の修得にある。日常的な専門教育、教養教育、専門技術教育も大切だが、こういう行事教育を通して日常的知性教育の枠組みそのものを活性化し大きくしていこうという試みなのだ。

それでは修得を目指すその「四つの心・生命力」とは何なのかということを以下簡潔に記す。

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の建学の精神である“筑紫の心”とは教職員と学生が心をひとつにして勇氣・親和・愛・知性の四つの芽を心の畑に種蒔き育てていくことである。進んでやれる元気な心・「勇氣」、あらゆるものと親しむ心・「親和」、慈しみ育む優しい心・「愛」、自己の務めを実現するための理性・知性・技術の心・「知性」。この四つの心が自分なりにバランス良く大きく育ち「個性的調和」がとれてくると、真の生命力が宿り本当の「夢・目標」が見えてくる。そしてその務めを一生懸命に果たして、自分の人生が揺るがない信念を持ってくると、この四つの心はさらに大きくなっていく。この「勇氣、親和、愛、知性」という4大分野の人間力・生命力を身につけることが人格教育の基盤と考えている。

この行事教育の内容を少し紹介してみる。各行事の式辞・講話などで学長、学長補佐、学部長、学生部長が各種行事の意義、本学の建学の精神に基づく「お掃除論」、四つの心の発動・発展、統合、調和による人格完成の大切さ、大学設置・各学部学科設置理念、本学の目標とする人材養成、夢・目標・天職・務め論、本学の成人とはなどが説明されている。基本的に全学行事なので、学生部や教務部の学生指導・生活指導、各学科の担任指導にも相互にその内容はつながっていく。学生、教職員の各種行事への積極的参加で建学の精神を中核とした同心円的教育チームワーク形成を大切にしている。

本学の学びは、そういう意味で人格教育と専門的な教科教育が一つになって創られていく。本学は、何よりも「心の畑を耕し」本物の人格的生命力を養っていく大学である。その人格的生命力と組み合せてそれぞれの人格の夢目標が形成され、そういう人格の発達状態で教養教育や専門教育、技術教育がなされている。

食指導・子育て・介護・リハビリ・データマネジメントというような生活者の専門人養成教育課程と建学の精神に基づく人格教育課程の双方から真の実学が実現すると私たちは考えている。高度な専門家養成と人格教育をできるだけ一体的に実践していこうということだ。それはそうすることで専門教育と人格教育の双方が活性化し充実してくるからである。真に実学教育を目指すなら、その教育課程が実学的でなければならないのだ。

今私たち大学を取り巻く環境は、少子高齢化、人口の大都市集中化傾向の中で過疎化、高齢化、少子化という厳しい現実にとさらされ地域・地方はますます痩せ細り続けている。私たちの地域、地方を復興させる振興創生する実践力を持った人材育成こそ地方大学の使命でもあり本学の使命でもある。

私たちは、地域・地方を復興させる本物の人材育成とは専門分野・技術を学びながら建学の精神にある「勇気、親和、愛、知性」という4大分野の人間力を身につけた人格形成と考えている。それは人格教育と専門的な教科教育が一つになって創られていくものである。本学は、何よりも「心の畑を耕し」本物の人格的生命力を養っていく大学であるから、先生方も担当される授業だけではなく行事教育や生活指導等にも積極的に取り組んでいる。学ぶ場は教室のみならず、各種行事、農園実習、課外活動、地域活動、交友関係などあらゆる面にある。キャンパス・地域全体が先生であり学びの場である。本学のような実学志向で実際に役に立つ学問技術を習得し地域貢献しながら自己の人生の真実を探究することを望んでいる。

要するに本学教育の特徴は、それぞれの専門分野を学びながら建学の精神に基づく人格の四つの心・四つの生命力、即ち「勇気・親和・愛・知性」の発動、発展、統合、調和方法も学び、専門的力と人格的力の両方を修得、たくましい人間形成をするという教育方法を模索しているところにある。高度な専門分野を習得し国家資格、免許等の取得を目指しながら一方で、「四つの心の全き」も目指して欲しい。

こうした本学の教育目標を各学部教育課程に反映させるため設定した各学部の3つのポリシーを以下に掲げる。

○ 食物栄養学部 食物栄養学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、食を通して福祉を実現するという使命感を有する管理栄養士を養成する。

1. 公衆衛生、公衆栄養の知識に基づき、食を通して地域住民の健康生活と福祉の向上に貢献できる能力を有している
2. 傷病者を対象とする栄養管理及び指導のための高度な専門知識を有している
3. 豊かな食生活を実現するために必要な食文化、調理科学的知識、調理技能を有している
4. 社会からの信頼に応えるため、専門的知識、技能及び教養を継続的に修得する向上心を有している

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 建学の精神である「勇気、親和、愛、知性」の調和のとれた人間性の実現を目指して、教科教育のみならず、様々な実習教育や多様な行事教育を取り入れる
2. 基礎教養科目では、「食の番人」的役割を果たす管理栄養士が備えるべき教養と知性、専門教育科目の学習に必要な基礎知識の修得を図る
3. 専門教育科目では、栄養士に必要な知識と技能の修得を主眼としている
専門教育科目は管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な「管理栄養士基本科目」とその他の専門科目群から構成されている
4. 管理栄養士基本科目では、食指導、食療法、食育などの専門知識と技能の体系的な修得を図る
5. その他の専門科目では、地域住民の健康生活と福祉の向上を目指し、食とリハビリテーション、食と運動、食と薬などの関連性について理解を深める
6. 教職に関する専門教育科目では、栄養教諭一種免許状の取得を目指すとともに、次世代の担い手である子供たちの食生活と健康を守るために必要な知識と技術を修得する

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

本学科は、食を通して福祉を実現する使命感を持った管理栄養士の育成を目的としています。よって以下のような学生を求めています。

1. 本学の建学の精神・教育理念、本学の教育目標に賛同する人
2. 相手の立場や気持ちを理解し、謙虚な姿勢で社会に貢献することを望む人
3. 専門的知識、技能及び教養を培うために主体的、積極的、継続的な努力を惜しまない人
4. 食と健康のかかわりについて強い関心をもち、科学的な視点から学ぶ意欲のある人
5. 新しいことに、チャレンジする勇気を持っている人

○ 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学科では、本学の建学の精神を理解し、卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

1. 子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する
2. 食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を修得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する
3. 食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する

4. 新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の架け橋となる能力を有する
5. 社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学修と自己研鑽に努める姿勢を有する

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 建学の精神にある「勇気、親和、愛、知性」の調和のとれた人間性を目指し、教科教育のみならず、多様な行事教育を取り入れる
2. 基礎教養科目では、本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、専門科目の履修に向けた基礎的知識・技術の修得に必要な科目を配置する
3. 食と健康科目では、食と健康に関する専門的な知識と技術の修得に必要な科目を配置する
4. データサイエンス科目では、食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識及び技術の体系的な修得に必要な科目を配置する
5. 食環境マネジメント科目では、産業界との連携による実践的な経験を重視し、現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に必要な科目を配置する

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる人材を求めます。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人
2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を修得し、論理的思考能力を有している人
3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を修得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人
4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人
5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人

○ リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

1. 建学の精神に基づく高い倫理観と豊かな人間性(勇気・親和・愛・知性)を身につけている
2. リハビリテーション分野に関する医学的基礎知識を修得し、専門的な知識と技術を有している
3. 保健・医療・福祉の幅広い領域において、セラピストの科学性と創造性を発揮して、地

域の人々における健康生活や QOL に科学的に貢献できる

4. 自らの課題や問題解決のために、他者と協働して調査や研究を実践して、各分野の発展に貢献できる能力を有している

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 「勇気・親和・愛・知性」の調和のとれた人間性を養うために様々な基礎教養科目ならびに行事教育を取り入れる
2. 理学療法と作業療法に関する専門科目を設置すると共に、各学科の特徴に即した幅広い分野の科目を配置する
3. 学外での臨床実習に関する科目を配置し、各学科の専門科目群と臨床実習を有機的に結びつける
4. 科学的・論理的思考能力を養うために各学科において臨床データの取り扱い方や臨床的介入における統計学的分析方法等の科目を設置する

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

リハビリテーション学部は、リハビリテーションを通して福祉を実現し、健康生活の番人を目指す療法士(セラピスト)の育成を目指しています。よって、以下のような学生を求めています。

1. 本学の建学の精神・教育理念、本学の教育目標に賛同する人
2. リハビリテーションを通して「健康生活の番人」を目指す人
3. 人と関わることが好きで、優しさや誠実さをもって他者へ接することができる人
4. 明確な目的意識を持ち、医学について積極的かつ継続的に学ぶ努力を惜しまない人

○こども教育学部 こども教育学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学部(学科)では、本学部の課程を修め、所定の単位の修得と必修等の条件を充たすとともに、以下の知識・能力・資質等を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

1. こどもの生涯にわたる成長および発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を修得している <こどもや教育に対する基礎的理解>
2. こどもの教育に関する新しい展望と課題について様々な角度から学修し、教育学・保育学分野の専門的知識と技能を修得している <教育に関する専門的理解>
3. 誰もが積極的に社会参加・貢献できる社会構築に向けた課題を理解し、多くの人々と協力してこれらの課題に適切に対処できる技能を修得している <共生社会において身に付けるべき資質・能力>
4. 生涯にわたって自律的に学び続け、教育者として自ら成長していくためにテーマを設定し、課題を解決する探究的な学びを修得している <主題を立て自ら探究する学び>

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学部(学科)では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力・技能等を身に付けさせるために、以下のよう教育内容と教育方法に基づき、教育に対する基礎、教育に関する専門、共生社会における教養および自ら探究する学びを体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を実施する。

1. こどもや教育について考えるのに不可欠な知識や原則について学ぶ基礎的科目を配する
2. 教育や保育に関する専門的な理論と実践について学ぶ専門的科目を配する
3. 社会規範や人間の行動原理・多様性について学ぶ科目を配すると同時に、学修内容を応用する実習科目を配する
4. 本学部(学科)での学びの集大成として、自らテーマを設定し卒業論文に取組み発表するための科目群を配する

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

本学部(学科)では、小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士等、多様な教育分野における専門的知識と技術を持った教育者を養成するために、以下に掲げる人材を求める。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性を基盤にした人格教育)に賛同する人
2. 高等学校までに学習した全ての教科において、基礎学力を身につけている人
3. 教育者になろうとする強い意志を持ち、積極的に学び、思考力・判断力・表現力を身につけようと努力する人(主体的意志力・思考力・判断力・表現力)
4. 豊かな感性・受容力・コミュニケーション能力を養い、地域を取り巻く教育に関心を持ち、こどもの健やかな成長を支援しようとする人(協調性)

・東筑紫短期大学

東筑紫短期大学は「子育て」「食」「介護」という、人間の生活に欠かすことのできない「生活実学」の専門分野を学び、将来的には地域社会に貢献できるプロフェッショナルを育成する専門職養成短期大学である。

東筑紫短期大学保育学科は創立 71 年という古い伝統を持ち、1 万人を超える卒業生を輩出してきた。北九州エリアの保育園・幼稚園・児童養護施設などで本学科の卒業生が在籍していない園はほとんどないと言っていいほどで、園長や主任などのポストに就いている人も数多く見受けられる。同じキャンパス内の附属認定こども園で 1 年次から実践的な学びの場を得られることは、学生の成長に大きく影響していると考えている。また、保育学科で幼稚園教諭二種免許状・保育士資格を取得することができる。その上、専攻科介護福祉専攻に進む人は 1 年で介護福祉士の国家試験受験資格を取得できる。幼稚園教諭免許状と 2 つの国家資格、合わせて 3 つ取得することになる。幼児教育から介護指導までの学問を修得しておけば強い

自信となり、これからの人生 100 年時代を支える人材育成が可能であると考えます。

東筑紫短期大学食物栄養学科も 67 年という長い歴史を誇る。自分の家庭はもとより、人々の健康づくりや食育に広く貢献できる実践的な栄養士を育成している。本学科の卒業生は学校(幼稚園)や保育園などの食育指導、病院や施設、ドラッグストアなどでの栄養指導、食品関係の企業など、幅広いステージで活躍している。また、管理栄養士の国家資格を目指して四年制大学へ編入学する学生もいる。

以上本学各学科のそれぞれが目指す専門教育の目標と実学的特徴を概観してきたが、本学園はこのような専門教育と同時並行的に行事教育という建学の精神に基づく人格教育を学園開学以来90年間実践してきた。行事教育という建学の精神に基づく人格教育については、九州栄養福祉大学で記した内容と共通であるため、本報告書においては割愛させていただき、本学の教育目標を各学科の教育課程に反映させるため設定した3つのポリシーを以下に掲げる。

○ 保育学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学科では、東筑紫短期大学が定める学科の教育目標を達成するように設定した教育科目を履修するとともに、各免許・資格に必要な単位を修得できる指導をします。そして、以下のような資質や能力を備えた学生に短期大学士(保育学)の学位を授与します。

1. 本学の建学の精神である「筑紫の心」－勇気・親和・愛・知性の四つの心－を基に、使命感、協調性、教育的愛情をもって、地域社会に貢献しようとする人
2. 子どもを理解し、支援する保育者として求められる職業倫理観や保育に関する基礎的・基本的な事項など専門的な能力を修得している人
3. 必要な専門的知識・技能とその活用能力やコミュニケーション能力を生かし、さらに保育者としての自覚をもって子どもの自己特性を大切にしたい対応ができる人
4. 子どもを取り巻く家庭や地域との連携・協力の重要性を理解し、質の高い保育の実践を求めて学び続ける人
5. 社会の急速な変化に対応でき、時代のニーズに沿った保育観がもてる人

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学科では、豊かな人間性と実践力のある質の高い保育者を養成します。そのために、建学の精神「筑紫の心」勇気・親和・愛・知性と幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等との関連性を理解し、以下のような観点から一般教育科目、専門教育科目を有機的に結びつけ体系的な教育課程を編成・実践します。

1. 基礎的な一般教育科目、専門教育科目、免許・資格取得に関する科目、保育の応用・実践科目等を体系的に配置します
2. 必要な単位を修得することで短期大学士(保育学)をはじめ、幼稚園教諭二種免許、

保育士資格、レクリエーション・インストラクター資格、認定ベビーシッター資格、こども音楽療育士資格、社会福祉主事任用資格等を取得することができます

3. キャンパス内にある認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園との連携を密にし、保育現場で役立つ実践力を身に付けることができる教育課程を編成・実施します
4. 本学科では、教育課程内ではもちろんのこと、教育課程・保育課程外での行事教育や各種取組(入学前のピアレッスン、補完指導等)を積極的に行い、学生の支援に努めます

□ アドミッション・ポリシー(入学受け入れの方針)

本学科では、幼稚園教諭や保育士等、子どもの成長を育み支援する人材の育成を目指しています。保育や幼児期の教育に関心を持ち、学ぶ意欲のある学生を求めます。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人
2. 保育者になろうとする強い意志を持ち積極的に学び、努力を惜しまない人
3. 子どもが好きで、子どもと積極的にかかわり理解しようとする意欲がある人
4. 豊かな感性とコミュニケーション能力、温かな愛情をもって子どもの健やかな成長を支援しようとする人
5. 将来、認定こども園や幼稚園、保育所、児童福祉施設等で働き、社会貢献しようとする人(幼稚園教諭や保育士等は、多様な分野の知識や技能が必要です。従って高校時代においても、幅広く学び、各教科の基礎的内容を身に付け、問題解決に自ら進んで取り組むことを期待します。)

○ 食物栄養学科 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

本学科の教育目標を達成するために栄養士免許取得に必要な科目を履修し、以下のような要件を満たす者に短期大学士(食物栄養学)の学位を授与します。

1. 幅広い教養科目の学びを通して、社会人として求められる豊かな教養、人間性、社会性を身に付けている
2. 栄養士専門分野を深く理解し、求められる職場において貢献できる実践力を身に付けている
3. 現代社会に求められる多様な技術を修得し、栄養士業務に活用できる力を身に付けている
4. 栄養士養成の中でさらに、小・中学校の栄養教諭としての資質を身に付けている
5. 栄養士養成の中でさらに、医療秘書実務士としての技術、ならびに医療に関わる職業人としての幅広い知識を身に付けている
6. 栄養士養成の中でさらに、食分野に深く関わるスペシャリストとしての力を身に付けている

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

1. 短期大学士としての一般教育科目や栄養士免許規定科目を全員が無理なく履修できるようにカリキュラムが組まれている
2. 栄養と健康の関係について専門的な知識を養うと共に、調理技術等を徹底修得するために多くの実験、実習科目を設置している
3. 本学科の正規の授業を履修することで「栄養士」免許と「栄養教諭二種」免許または「医療秘書実務士」等の資格が取得できる
栄養士養成に関連した授業と他の免許や資格取得のための授業が2年間で効率よくカリキュラムに組まれている
4. 学外実習として現場での実習は応用力の修得のみならず、自分の適性に合った職場を考える機会となる
病院、施設、保育所などから選択する給食実習や小学校での給食実習、さらには栄養教諭としての教育実習や医療事務の実習が組まれている

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

本学科では生きる基本である「食」を通して人々の健康づくりに貢献できる栄養士を目指しています。よって、食物栄養学科では以下のような学生を求めます。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人
2. 現代社会で求められる「食」のプロとして社会に貢献したいという熱意を持つ人
3. 「食」や「健康」に対して強い関心を持ち、主体的に学習する意欲を持つ人
4. 子どもの食生活の大切さについて関心を持ち、栄養教諭を目指す人
5. 「医療」や「福祉」にも興味関心があり幅広く学ぼうとする意識を持つ人
6. お互いの役割を理解し合い協調性をもって取り組むことができる人

○ 専攻科 介護福祉専攻 3つのポリシー

□ ディプロマ・ポリシー(修了までに身に付けるべき能力(修了認定の方針))

本科の教育目標を達成するために介護福祉士資格取得に必要な科目を履修し、以下の要件を満たす者に専攻科の修了証を授与します。

1. 本学の建学の精神である「筑紫の心」—勇気・親和・愛・知性の四つの心—を基に、使命感、協調性、倫理観、豊かな人間性をもって、地域社会に貢献できる
2. 介護福祉士に必要な専門的知識・技術、職業倫理を修得し、多様なニーズに的確に対応できる実践力を身につけている
3. 多職種協働及び地域、家庭との連携の重要性を理解し、質の高い保育・介護福祉の実践ができる
4. 最善のサービスの提供を目指し、自らの専門的知識・技術の研鑽に努力する

□ カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

保育士養成課程の学びのもとに、介護福祉の専門的知識・技術、高い職業倫理の修得に向けて、以下のような教育課程を編成・実践します。

1. 尊厳を尊重し自立を支える介護福祉の理念を培い、生活支援の四領域(「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」)が効果的に修得できるよう、段階的、体系的にカリキュラムを編成します
2. 教育実学を重視し、根拠に基づく生活支援の実践力を養うべく、座学、演習、実習、評価を相互的、有機的に実施します
3. 多様な生き方や価値観の理解、他者との協働性、向上心を備え持ち、広い視野で専門性を発揮する人材の養成を目指して、学外研修、地域活動、報告会等の多様な教育展開に取り組みます
4. 学生の個別性を尊重し、教育課程における学生支援の姿勢を重視します

□ アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

本科では、少子高齢社会において、子どもの育成と高齢者・障害者福祉の課題に貢献しゆく、保育士資格を持つ介護福祉士の養成を目指しています。よって、次のような学生の入学を求めています。

1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人
2. 地域社会の現状に関心を持ち、主体的に学ぶ意欲を持つ人
3. 豊かな感性を持ち、思いやりと感謝の心で人に接することができる人
4. 自己理解と他者理解への努力を行い、コミュニケーションが取れる人

・東筑紫学園高等学校・照曜館中学校

東筑紫学園は、人間尊重の教育に力をそそいでいます。人類の未来を明るく築くためには、次代を担う若者の教育が重要です。我が学園では、本校を巣立つ若者が、豊かな家庭を築き、社会を支える力を身につけ、健全な繁栄・発展に寄与できる知識や知恵そして技能を習得できる教育を実践しています。

この教育方針を現実のものとするために、本学園は幼稚園・中学校・高等学校・短期大学・大学・大学院の各教育機関を設置し、常に社会から必要とされる人材の育成に取り組んできました。各教育機関は、建学の精神「筑紫の心」に基づき、生命の尊さに目覚め、己をむなしくして社会に奉仕する人間像を理想とし、個性や徳性を伸ばしながらより高い学力を身につけた創造性豊かな若者を育成してきました。

昨今は、国際化や技術革新の進む 21 世紀に対応するため、よりレベルの高い教科学習活動を積み重ねながら、並行して行事教育・創作表現教育を行い、豊かな感受性や協調性を身につけ、均整のとれた人間像を培うことに重点を置いています。また、本校では、各科・コース・専攻を多様に設置し、それぞれの特質を生かしながら自由闊達な学習プログラムを組み、一人ひとりの歩みに沿った教科指導を行っています。

これからの社会の担い手となる生徒たちは、健やかな身体と豊かな心を持ち、地球上のあらゆる生命と幸

福に共存する知恵と実践力を身につけなければなりません。

本学園における教育の取り組みは、豊かな学習環境・ゆとりある学習・ゆきとどいた指導を通じ、生徒の積極的な学習意欲によって具体的に形作られます。

各部局の方針・取り組み

○ 照曜館部

中・高6年の一貫教育の目的は、より高い学力と豊かな創造性を育み、現代社会の課題に対応する能力を養い、進路目標を達成することにあります。毎日の授業のほか、必要に応じて、補習・補充授業を行い、充実した学習体制を確立し、一人ひとりの目的達成のための徹底した教科学習指導を行います。

(1) 豊かな人間形成

講話、道徳、学級指導、全教科の指導を通じて最も大切な徳性を養います。体育の授業、クラブ活動、部活動及び精選された学校行事を通して健全な身体と強固な意志を養成します。

(2) 中高一貫教育

一貫教育カリキュラムを導入。6か年を下記の目標に従って区分しています。

中1年・中2年 ～基礎学力の養成

中3年・高1年 ～応用力の伸展。文系、理系の進路の発見と決定

高2年・高3年 ～進路に適した授業の選択と目的達成

(3) 習熟度クラス編成

生徒の学力・適性に応じて、習熟度別編成を行います。クラス変更は基準に従って年度ごとに行われます。

特に英語、数学などは習熟度によって教材・進度を変えて指導を行います。

(4) 個別指導の強化

画一的な教育に陥らぬよう留意し、学級における個人面談及び教科担当教師による生徒一人ひとりに対する丁寧な指導、助言につとめます。

(5) 教科指導の徹底

大学進学をめざす照曜館一貫教育のカリキュラムに基づく教科指導の徹底と、定期考査及び実力考査にもとづいて学力を把握し適切な指導を推進します。

(6) 進路指導

経験豊かな教員が多くのデータを活動しながら、正確に学力を診断し、保護者との緊密な連絡のも

とに本人が希望する最適な進路を助言します。

普通科・照曜館コース 大学合格実績(令和8年度入試)

<国公立大学合格>

京都大学(医学部 医学科)1名	福岡教育大学(教育学部)1名
一橋大学(商学部)1名	佐賀大学(理工学部)1名
大阪大学(工学部)2名	長崎大学(歯学部・水産学部・多文化社会学部)3名
神戸大学(国際人間科学部)1名	大分大学(理工学部)1名
高知大学(医学部 医学科)1名	宮崎大学(工学部)1名
熊本大学(医学部 医学科・医学部・情報融合学環)3名	鹿児島大学(理学部)1名
九州大学(歯学部・工学部)2名	県立広島大学(地域創生学部)1名
広島大学(薬学部)1名	広島市立大学(国際学部)1名
山口大学(教育学部・工学部)2名	下関市立大学(看護学部)1名
九州工業大学(工学部・情報工学部)4名	北九州市立大学(文学部・外国語学部・国際環境工)4名

<私立大学合格>

慶應義塾大学 1名	関西大学 6名
早稲田大学 1名	産業医科大学 1名
明治大学 1名	西南学院大学 9名
立教大学 4名	福岡大学 21名
中央大学 1名	久留米大学(医学部 医学科)2名
同志社大学 8名	川崎医科大学(医学部 医学科)1名
立命館大学 11名	九州栄養福祉大学 3名
関西学院大学 6名	他多数

○ 総合課程部

[普通科・特進コース]

特進コースでは、国公立および私立大学合格を目標とする教科課程を編成しています。まず、早期に基礎力の充実と家庭学習の習慣の確立をはかり、大学受験へ向け徹底した取り組みを行います。2年次からは、文系・理系に分かれた授業も実施されます。英語ではグレード別クラス編成を行い、理解度に合わせた授業を展開します。自習室(私語厳禁)も完備されており、予習・復習に集中して取り組むことができます。また、服装・礼儀などの生活指導も厳しく行いながら、高等学校での3年間で可能な限り学力向上に努め、志望校合格を目指します。

[普通科・進学コース]

進学コースでは、上級学校進学に必要な授業カリキュラムが組まれています。2年生からは文系・理系に分かれた授業も実施されるため、入学直後から志望する分野を模索していく必要があります。高校生活を有意義なものにするためには、部活動も大きな存在となり得ますが、勉強も大切です。基礎学力の定着をはかるためにも、→予習→授業→復習の学習サイクルを何度もくり返し、いち早く学習習慣を身に付けさせます。そして、そこから自分なりの学習方法を確立していくことが、進学コースにとって初めに重要視する部分です。

自習室(私語厳禁)も積極的に活用することで自ら学習する環境を作り、整え、進学コースで進路目標を達成させます。

[普通科・総合(専攻)進学コース]

普通科の基本的な学習に加え、それぞれ選択した美術・音楽・演劇・服飾の専攻コースで専門的な授業を受けることができます。

「できる自分に自信が持てる。自信がつけば世界が変わる」を合言葉に、卒業後の進路実現に向けてしっかりサポートするコースです。高校三年間の学びをさらに深めるために芸術系の大学に進んだり、本校系列の東筑紫短期大学に進学し、保育士・幼稚園教諭を目指したり、幅広い進路選択が可能です。社会に貢献し活躍できる自分作りを目指します。

(美術専攻)

個性を発見し、芸術的感性の育成をめざします。生涯にわたり美術を愛好する心情や個性豊かな美術の能力を身につけます。創作活動を通してものごとを追究し、真剣でひたむきに生きる姿勢を養います。

- ・ 個性の発見 … 一分野にかたよることなく、より多くの分野を学習しながら、共同制作等、集団活動を通して、各自の能力やコミュニケーション能力の育成に勉めます。
- ・ 専門分野の修得 … 美術をより深く学習しようとする者、美大、芸大への進学をめざす者の為に、造形の技術や精神を重視

した内容で学習します。

- ・ 技術的財産の修得 … レタリング検定などの技能検定試験を受験することにより、美的能力の伸長と技術財産の修得に努めます。
- ・ 作 品 発 表 … 各種コンクールや、展覧会などに積極的に出品、応募することで、自己研鑽に努めます。

（音楽専攻）

器楽や歌唱の実技レッスンを通して、基礎的な技術や音楽表現について学びます。また理論や音楽史などの基礎的な学びを通して音楽に対する理解を深め、同時に自分の感性や表現能力を身につけていき、ピアノや管楽器を中心に音楽コンクールなどにも多数参加しています。日々の練習や授業の中から、物事への取り組み方や、将来の進路に対する積極性を身につけていきます。

音楽系や保育・教育系などあらゆる進路に対して、生徒に合った進路指導をサポートしていきます。

（演劇専攻）

大学進学に向けての学習を行いながら、国語の立体教育として、演劇に関する専門の科目を学び、調和のとれた、健全な、より望ましい人格の育成を目指します。劇表現や身体表現など演劇の専門科目及び、劇づくりを通して「正しい言葉」「美しい動作」「豊かな表情」等、自己表現とコミュニケーション能力を身につけた人間を育成します。また選択授業として声優とダンス、その他ミュージカルなど各種特別授業も実施し、生徒一人ひとりの夢の実現をサポートします。

（服飾専攻）

ファッションに関する基礎知識と技術の習得、更に豊かな想像性と表現力を養い、専門性を深めることができるよう授業を行います。

また自らデザイン・製作をした作品を身にまといファッションショーを行うなど、日々の学びで身につけたスキルを思う存分発揮できます。その他にも、専門学校等から外部講師を招いての特別授業も行っています。

作品製作や発表の場を通して、技術面だけでなく精神力や協調性をも高め、ファッション業界だけでなく、幅広い分野で活躍することができる人材の育成を目指します。

〔食物文化科〕

食物文化科は厚生労働大臣の指定を受けた調理師養成施設で、この科の特典は、卒業と同時に調理師の資格が取得できることです。そして、健康で安全な食生活を営むための知識や技能を習得し、科学的、衛生的な知識にもとづいた調理師としての力を養うことに重点を置いています。

年間を通して計画的に実習時間が組まれていますので、それぞれの専門科目の基礎をしっかりと学習

したうえで、調理の基本技術を反復しながら自ら創作する力を養って貰います。

・認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園

東筑紫短期大学附属幼稚園では、昭和 26 年の開園以来、東筑紫短期大学保育学科の実習園として、幼児教育の実践研究を推進してまいりました。平成 28 年度に学園創立 80 周年記念事業として園舎改築工事を行い、平成 29 年 4 月から新たに「認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園」として開園いたしました。

「よいこのころはちくしのころ」を教育理念として、保護者の皆様からお預かりした大切なお子さまの「勇気・親和・愛・知性」という四つの心の芽を育み、未来へ羽ばたく力を育ててまいります。

教育目標

1. 父母に感謝し、祖先を崇め天地の恵みに感謝する子供に育てる。(愛)
2. 健康で逞しくしかも集団の中にあつてのびのびとしたこどもに育てる。(勇気)(親和)
3. 生活に必要な能力や態度などを身につけ、感性豊かなこどもに育てる。(知性)

特色ある取り組み

1. 認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園として、教育内容の充実を図ります。
2. 同じ学園内の東筑紫短期大学、九州栄養福祉大学、東筑紫学園高校、照曜館中学校など連携を取り交流します。
3. 子育て家庭をサポートし、地域に開かれた身近な園となれるように、九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学の教職員と連携し、本学園の専門性をいかした子育て支援や食育の推進を図ります。
4. 「花や小鳥をかわいがり人に親切にして美しい心をもちましよう」を目標に全園児が「小さな親切」運動に参加しています。

(2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

本学園の中期計画は、建学の精神と教育理念を基盤として地域に貢献できる人材の育成を観点にこれまで推進してきた中長期計画「学校法人東筑紫学園における中長期計画(令和 4 年 2 月 16 日作成)」を踏まえ、認証評価をはじめ各行政監督庁等における評価及び改善に向けての指導を反映させるものとする。

特に教学、人事、施設、財務等に関する事項などの取り組むべき内容や毎年策定する事業報告書を踏まえ、令和 7 年度から令和 11 年度に至る主な事業の目的・計画について、以下のとおり学校毎の推進計画

を提示する。

I 「九州栄養福祉大学」・「東筑紫短期大学」中期計画

(1)教育関係

- 1 新学部・新学科開設における設置計画に基づき、施設設備の整備や教職員の採用を適切に行う。また、令和7年度より食環境データサイエンス学科併設施設「AIイノベーション・データサイエンス研究棟(KIDS LABO)」の整備に着手する。
- 2 AI・データサイエンス技術の急速な進展を踏まえ、教育課程にAI・データサイエンス教育プログラムの導入を図る。
- 3 本学教育の専門分野を通じて地域社会との連携を推進し、地域の振興や社会への貢献を目指し、連携に係る学生のキャリア形成につなげる。
- 4 学生納付金の適正な見直しを行い「経常収支差額」の改善を図る。
- 5 「私立大学等経常費補助金」の一般補助「教育の質に係る客観的指標」の増額を図る。
- 6 「施錠管理」「節電節水」の徹底により、光熱水費の節約や施設の安全性向上を図る。

(2)学生募集関係

- 1 国家資格取得に向けた教育指導を充実させ、大学の魅力を高めるとともに入学者数の安定的な確保を図る。
- 2 入学者数減少に伴う学納金の収入減については、教育研究経費・管理経費の見直しを行い収支の均衡を図る。
- 3 学生募集経費については広報活動の費用対効果を踏まえて年度毎に見直しを図る。

(3)人事関係

- 1 小倉北区キャンパスと小倉南区キャンパスの事務職員の配置を検討し効率的な人員配置を図る。
- 2 学生数減少に伴う収入源に対し賞与・各種手当等人件費の見直しを図る。
- 3 重要業務に人的資源を集中し、教育的・財政的効果の低い事業からの撤退や縮小を図る。

(4)経理関係

- 1 遊休不動産の売却による施設設備拡充費引当特定資産の拡充を図る。
- 2 DXを推進し業務の効率化と経費のさらなる見直しを図る。

Ⅱ 「東筑紫学園高校」・「照曜館中学校」中期計画

(1)教育関係

- 1 中学の生徒減によるクラス編成、生徒募集について検討を図る。
- 2 就学支援金の拡充や所得制限撤廃に対応した授業料の見直しを図る。
- 3 授業評価、学校評価等の調査のシステム化を促進し授業及び教育の向上を図る。

(2)生徒募集関係

- 1 推薦入試や特待生制度等入試制度の見直しを行い入学者数の確保を図る。
- 2 入試業務の一部自動化(採点業務など)の導入や作問研究や環境、運用ルールを策定する。

(3)施設設備整備関係

- 1 講堂の冷暖房設備導入、老朽化したエアコンの計画的入れ替え、生徒用ロッカー・下足ロッカーの整備を図る。
- 2 食堂、売店の生徒利用者増大に向けた活性化を図る。
- 3 国庫補助金を活用した全館照明器具のLED化を図る。
- 4 校務システム、会計システム機器について入れ替え、アップグレードを図る。

(4)人事関係

- 1 常勤講師の補充による校務分掌業務の負担軽減を図る。
- 2 DXを推進し業務の効率化とペーパーレスへの移行を図る。

Ⅲ 「認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園」中期計画

(1)教育関係

- 1 附属幼稚園としての環境を活かした保育の展開を図る。
- 2 「節電節水」等の徹底により、光熱水費の節約を図る。

(2)園児募集関係

- 1 園児募集を踏まえた子育て支援の充実と国の政策である「誰でも通園制度」の検討を図る。
- 2 ホームページなど広報活動の充実を図る。

(3)人事関係

- 1 施設給付等の補助金を活用し事業展開が可能な人材の確保を図る。

・事業計画の進捗・達成状況

学校法人東筑紫学園は、上記「中期計画(令和 7 年度～令和 11 年度)」及び「令和 7 年度事業計画」に基づき、施設設備の整備や教職員の採用をおこないました。

令和 6 年度は老朽化した校舎を改修し、令和 7 年度は九州栄養福祉大学に新学部・新学科(「こども教育学部こども教育学科」「食物栄養学部食環境データサイエンス学科」)を開設しました。改修工事と設置費用に大きな予算を費やしましたが、近年減少傾向であった入学者が令和 8 年度は中学、高校、短大、大学ともに増加に転じる見通しであり、効果が表れているところであります。

令和 6 年度に購入しました旧福岡銀行南小倉支店の改修工事につきましても、学生動向を踏まえながらキッズラボ構想の実現に向け計画を進めてまいります。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表

当該会計年度末の財政状態を明らかにするものです。

財政状況の健全性は、短期的には、支払資金や特定資産の保有額と、短期借入金や未払金などの流動負債との関係で示されます。また長期的には基本金と繰越収支差額の増減の動向によって把握されます。

令和7年度末の本学園の資産総額は188億2,924万円で前年度末に対して1.6%増加、負債総額は15億1,680万円で前年度末比21.1%増加しました。会計基準の改正に伴い新たに賞与引当金1億482万円計上したことが負債総額増加の主な要因です。資産総額から負債総額を引いた純資産額は173億1,244万円で、前年度末比0.2%増加しました。令和6年度は大学・短大の校舎改修工事を自己資金にて賄ったため運用資産(現金金+特定資産+有価証券)が減少しましたが、令和7年度は長年使用していなかったグラウンドを売却し運用資産の保有状況が改善しました。

ア) 貸借対照表の状況と経年経過

(単位:千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	16,673,936	16,708,168	16,667,078	16,387,541	16,066,221
流動資産	1,880,350	1,899,809	1,996,640	2,149,871	2,763,026
資産の部合計	18,554,286	18,607,977	18,663,718	18,537,412	18,829,247
固定負債	469,266	469,501	471,317	471,609	474,080
流動負債	822,452	797,443	746,242	781,009	1,042,724
負債の部合計	1,291,718	1,266,944	1,217,559	1,252,618	1,516,804
基本金	17,786,040	17,695,363	17,916,387	20,689,567	20,589,139
繰越収支差額	△ 523,472	△ 571,330	△ 687,228	△ 3,621,773	△ 3,276,696
純資産の部合計	17,262,568	17,341,033	17,446,159	17,284,794	17,312,443
負債及び純資産の部合計	18,554,286	18,607,977	18,663,718	18,537,412	18,829,247

イ) 財務比率の経年比較

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	2.01	2.14	2.20	1.16	1.39
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	228.6%	238.2%	267.6%	275.3%	265.0%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.0%	6.8%	6.5%	6.8%	8.1%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	371.3%	388.5%	483.2%	470.9%	581.3%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	98.7%	95.5%	96.0%	55.1%	67.4%

② 事業活動収支計算書

企業会計における損益計算書に相当し、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするものです。

学校法人は収支の余剰の獲得を目的とするものではありませんが、事業活動収入と事業活動支出が、長期的にほぼ同額でつり合うことが、健全な学校経営として望まれます。

令和7年度の経常収支差額は5億280万円の支出超過となりました。過年度の校舎改修工事に伴う減価償却費の増加と、新学部・新学科(「こども教育学部こども教育学科」「食物栄養学部食環境データサイエンス学科」)開設に伴う費用の増加を主な要因として教育研究経費が増加しました。一方で特別収支差額はグラウンドの売却により5億3,045万円の収入超過となり、基本金組入前当年度収支差額は2,764万円の収入超過となりましたが、当年度収支差額は△1億3,642万円となりました。

令和7年度事業活動収入計38億7,338万円、事業活動支出計38億4,574万円となりました。

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	2,167,514	2,081,118	2,119,772	2,050,713	2,001,262
	手数料	53,472	58,694	55,675	55,430	59,096
	寄付金	29,353	22,824	17,601	57,781	26,328
	経常費等補助金	927,767	941,214	971,873	969,252	1,072,388
	付随事業収入	12,983	3,750	1,501	1,598	1,727
	雑収入	108,345	51,784	75,563	68,034	61,851
	教育活動収入計	3,299,434	3,159,384	3,241,985	3,202,808	3,222,652
	事業活動支出の部					
	人件費	1,920,815	1,859,585	1,869,539	1,832,623	1,853,051
	教育研究経費	1,132,215	1,147,388	1,120,586	1,326,177	1,618,578
	管理経費	145,297	154,465	166,674	304,583	261,928
	徴収不能額等	314	1,029	457	311	0
	教育活動支出計	3,198,641	3,162,467	3,157,256	3,463,694	3,733,557
	教育活動収支差額	100,793	△ 3,083	84,729	△ 260,886	△ 510,905
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	897	821	715	1,925	8,103
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	897	821	715	1,925	8,103
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	897	821	715	1,925	8,103
経常収支差額		101,690	△ 2,262	85,444	△ 258,961	△ 502,802
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	606,907
	その他の特別収入	46,482	80,728	19,682	130,804	35,728
	特別収入計	46,482	80,728	19,682	130,804	642,635
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	0	0	0	33,208	8,783
	その他の特別支出	0	0	0	0	103,401

収特 支別	特別支出計	0	0	0	33,208	112,184
	特別収支差額	46,482	80,728	19,682	97,596	530,451
基本金組入前当年度収支差額		148,172	78,466	105,126	△ 161,365	27,649
基本金組入額合計		△ 146,757	△ 129,410	△ 222,383	△ 2,869,450	△ 164,074
当年度収支差額		1,415	△ 50,944	△ 117,257	△ 3,030,815	△ 136,425
前年度繰越収支差額		△ 594,480	△ 523,473	△ 571,329	△ 687,228	△ 3,621,773
基本金取崩額		69,592	3,087	1,358	96,270	481,502
翌年度繰越収支差額		△ 523,473	△ 571,329	△ 687,228	△ 3,621,773	△ 3,276,696
(参考)						
事業活動収入計		3,346,813	3,240,933	3,262,382	3,335,537	3,873,390
事業活動支出計		3,198,641	3,162,467	3,157,256	3,496,902	3,845,741

イ) 財務比率の経年比較

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	58.2%	58.8%	57.7%	57.2%	57.4%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.3%	36.3%	34.6%	41.4%	50.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.4%	4.9%	5.1%	9.5%	8.1%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	4.4%	2.4%	3.2%	△4.8%	0.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	65.7%	65.9%	65.4%	64.0%	61.9%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	3.1%	△0.1%	2.6%	△8.1%	△15.6%

③ 資金収支計算書関係

・資金収支計算書

企業会計のキャッシュフロー計算書に相当し①その年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにし②その年度における支払資金のてん末を明らかにするものです。支払資金とは現金及びいつでも引き出すことができる預貯金です。

令和7年度は前年度繰越支払資金14億9,776万円に当年度の資金収入46億1,710万円を加え収入計61億1,486万円となりました。当年度の資金支出は39億1,773万円で翌年度繰越支払資金は21億9,713万円となり、繰越支払資金は6億9,937万円増加しました。

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	2,167,514	2,081,118	2,119,772	2,050,713	2,001,262
手数料収入	53,472	58,694	55,675	55,430	59,096
寄付金収入	61,582	102,026	29,390	64,533	32,331
補助金収入	942,020	941,844	979,766	1,091,417	1,099,721
資産売却収入	0	0	0	0	1,106,460
付随事業・収益事業収入	12,983	3,750	1,501	1,598	1,727
受取利息・配当金収入	897	821	715	1,925	8,103
雑収入	142,214	115,513	141,278	105,127	106,156
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	355,637	357,911	302,758	318,032	377,940
その他の収入	249,329	198,315	144,952	3,233,132	249,607
資金収入調整勘定	△ 521,066	△ 443,332	△ 470,848	△ 509,446	△ 425,300
前年度繰越支払資金	1,453,054	1,320,306	1,390,438	1,462,937	1,497,762
収入の部合計	4,917,636	4,736,966	4,695,397	7,875,398	6,114,865

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	1,960,209	1,922,325	1,933,437	1,869,415	1,892,447
教育研究経費支出	754,579	763,556	722,960	912,472	1,055,703
管理経費支出	137,085	146,434	156,683	293,698	254,232
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	190,962	14,498	126,423	2,738,346	15,859
設備関係支出	44,634	151,822	128,889	395,344	198,407
資産運用支出	472,303	279,734	134,838	133,709	565,238
その他の支出	53,600	85,196	51,620	55,926	40,948
資金支出調整勘定	△ 16,042	△ 17,037	△ 22,390	△ 21,274	△ 105,104
翌年度繰越支払資金	1,320,306	1,390,438	1,462,937	1,497,762	2,197,135
支出の部合計	4,917,636	4,736,966	4,695,397	7,875,398	6,114,865

・活動区分資金収支計算書

資金収支計算書を新たに活動区分ごとに資金の流れがわかるように作成したものが活動区分資金収支計算書です。学校法人における諸活動を三つの活動区分に分けて、資金の流れを表しています。「三つの活動区分」とは①教育活動②施設若しくは設備の取得又は売却その他これらに類する活動(施設整備等活動)③その他の活動です。令和7年度は教育活動による資金収支差額2億1,027万円、施設整備活動による資金収支差額4億8,013万円、その他の活動による資金収支差額897万円となり、翌年度繰越支払資金が6億9,937万円増加しました。

イ) 活動区分収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,333,303	3,222,358	3,307,700	3,239,893	3,266,957
教育活動資金支出計	2,851,873	2,832,314	2,813,080	3,075,585	3,201,371
差引	481,430	390,044	494,620	164,308	65,586
調整勘定等	△ 57,833	10,824	△ 76,329	38,084	144,688
教育活動資金収支差額	423,597	400,868	418,291	202,392	210,274
施設設備等活動による資金収支					
施設設備等活動資金収入計	46,482	79,833	19,681	3,205,917	1,139,796
施設設備等活動資金支出計	595,596	426,320	365,311	3,253,690	754,265
差引	△ 549,114	△ 346,487	△ 345,630	△ 47,773	385,531
調整勘定等	△ 14,253	13,887	366	△ 118,320	94,599
施設設備等活動資金収支差額	△ 563,367	△ 332,600	△ 345,264	△ 166,093	480,130
小計(教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)	△ 139,770	68,268	73,027	36,299	690,404
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	156,740	90,752	58,892	45,770	51,747
その他の活動資金支出計	149,718	88,888	59,421	47,244	42,778
差引	7,022	1,864	△ 529	△ 1,474	8,969
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	7,022	1,864	△ 529	△ 1,474	8,969
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 132,748	70,132	72,498	34,825	699,373
前年度繰越支払資金	1,453,054	1,320,306	1,390,438	1,462,937	1,497,762
翌年度繰越支払資金	1,320,306	1,390,438	1,462,936	1,497,762	2,197,135

ウ) 財務比率の経年比較

		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	12.7%	12.4%	12.6%	6.2%	6.4%

(2) その他

- ① 資産運用の状況 該当なし
- ② 借入金の状況 該当なし
- ③ 学校債の状況 該当なし

④ 寄付金の状況

(単位:千円)

寄付金の種類	寄 付 者	金 額	摘 要
一般寄付金	個人・保護者・企業 他	15,295	教育・研究活動・教育環境等
特別寄付金	個人・保護者・企業 他	17,035	設備整備・教育機器備品等
現物寄付金	個人・教職員	2,392	科学研究費機器備品・図書等
合 計		34,722	

⑤ 補助金の状況

(単位:千円)

補助金の種類	交付元	金 額
国庫補助金		342,193
経常費補助金	国	111,908
授業料等減免費交付金	国	230,285
地方公共団体補助金		570,848
経常費補助金	福岡県	503,897
私立学校設備整備費補助金	福岡県	23,650
交通遺児等授業料軽減補助金	福岡県	19,190
一人一台端末整備費補助金	福岡県	11,097
私立学校給食費支援金	福岡県	1,795
物価高騰対策支援金	福岡県	1,235
外国人留学生等参入促進事業費補助金	福岡県	747
私立学校振興助成補助金	北九州市	3,683
結核予防補助金	北九州市	686
人権・同和教育研修事業に係る補助金	福岡県私学協会	6
私立幼稚園振興助成補助金	北九州市私立幼稚園連盟	2,047
一時預かり事業補助金	北九州市私立幼稚園連盟	1,443
子育て支援保育補助金収入	北九州市私立幼稚園連盟	1,026
幼稚園教諭定着金給付補助金	北九州市私立幼稚園連盟	340
家庭教育学級委託料	北九州市私立幼稚園連盟	6
施設型給付費	北九州市	186,680

⑥ 収益事業の状況

該当なし

⑦ 関連当事者等との取引の状況

該当なし

⑧ 学校法人間財務取引の状況

該当なし

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

① 経営上の分析

令和7年度事業活動収支計算書における経常収支差額は5億280万円の支出超過となりました。2期連続支出超過となりましたが、今後、新学部新学科の年次進行により段階的に改善していく見込みです。一方、長年使用していなかったグラウンドを売却し、基本金組入前当年度収支差額では2,764万円の収入超過となり、運用資産の保有状況も改善しました。

②経営上の成果と課題

令和7年度、九州栄養福祉大学に「こども教育学部こども教育学科」と「食物栄養学部食環境データサイエンス学科」を開設。令和8年度は近年、減少傾向であった入学者数が中学・高校・短大・大学とも増加に転じる見通しであります。しかしながら、九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科の定員は大きく未達しており定員充足率の改善が大きな課題です。

③今後の方針・対応策

九州栄養福祉大学新学科が4学年揃う完成年度(令和10年度)での学校法人全体の「経常収支差額」の黒字化へ向け収支の改善を図ってまいります。令和8年度以降、新学部新学科を含む各学校部門の学生数の確保をおこない学校法人全体の経営を持続的かつ安定的なものとしてまいります。

4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用状況の概要

当学校法人は、業務の適正性及び効率性を確保するため、内部統制システムを整備するとともに、その適切な運用に努めています。当該体制の整備及び運用状況の概要は以下のとおりです。

1. 理事会等によるガバナンス体制

理事会及び評議員会を定期的に開催し、法令及び寄附行為に基づき重要事項の審議・決定を行うとともに、理事から業務執行状況の報告を受け、職務執行の監督を行っています。

【運用状況】

当事業年度において理事会を7回、評議員会を6回開催し、予算、事業計画その他の重要事項について適切に審議・決定を行うとともに、理事の業務執行状況について報告を受け、監督を実施しました。また、私立大学・短期大学ガバナンスコードに基づいて各項目における実施状況について確認を行っています。

2. 規程の整備及び運用

業務分掌規程、職務権限規程、経理規程等を整備し、責任及び権限の明確化を図っています。

【運用状況】

各規程に基づき業務を執行するとともに、必要に応じて規程内容の見直しを行い、関係教職員への周知を図りました。

3. リスク管理体制

学校運営に係る各種リスク(財務、法令、災害、情報等)について、担当部署を定め、リスクの把握及び管理を行っています。

【運用状況】

各部署においてリスクの洗い出し及び点検を実施し、必要な対応策を講じています。
当事業年度において重大なリスク事案は発生していません。

4. コンプライアンス体制

法令遵守の徹底を図るため、教職員への周知及び意識向上に努めています。

【運用状況】

職員会議及び教職員研修会等を通じて法令遵守に関する周知を行い、適切な業務執行の確保に努めました。

5. 情報の保存及び管理

文書管理規程等に基づき、重要文書及び情報の適切な保存及び管理を行っています。

【運用状況】

規程に基づき文書及び情報の管理を適切に実施しており、個人情報を含む重要情報につ

いても適正に取り扱っています。

6. 監査体制

監事による監査を通じて、業務執行の適正性の確保に努めています。

【運用状況】

監事による業務監査を実施し、指摘事項については関係部署において改善対応を行うとともに、その状況について確認を行っています。

7. 業務効率化への取組

業務の効率化及び内部統制の強化を目的として、各種業務の見直しを行っています。

【運用状況】

給与明細や雇用契約書の電子化並びに勤怠管理のシステム化を実施し、業務の効率化を図りました。